令和元年度 第２回学校運営協議会　議事録

令和２年２月４日（火）15:00～16:30
於：校長室
書記：辻　眞人

【出席者】
＜委員＞
寺本　毅（守口市立八雲中学校　校長）…会長
竹内　章（成蹊大学　スポーツ＆カルチャーセンター長）…副会長
江田　優紀（ベネッセコーポレーション大阪支社）
小倉　庸敬（(株）淀川製作所　代表取締役）
＜校長＞
富永　誠
＜事務局＞
辻　眞人（教頭）
山地　千里（事務長）

【議事】
１）　学校教育自己診断アンケート結果より
２）　脳力開花プロジェクトについて
３）　スマホのルールについて
４）　事務連絡

【協議】
１）
①１の「学校に行くのが楽しい」が７割を超えているのは、高校としては非常に高い数字が出ており、貴重な結果である。
②進路指導に関しては、生徒と保護者の間に差がある。保護者には１，２年生の時から家庭で話が出来るように、担任から懇談等でしっかりと話をしていただき、家庭と共有することが出来れば良い。しかし、この数字は他校に比べて良い。
③高校は仕事に繋がる多様性と持った進路のため、説明しきれないものがあり、保護者も生徒もイメージを持ちにくい。
④いじめに関して学校の対応について、保護者は良いが生徒は肯定的な数字は低い。軽微は問題は早いうちから注意喚起をするべき（表に出てくるのは大きな事象である)。

２）
①POINT１がめざすように学習環境が良い方向にいけば、学習意欲がどう変わっていくか見てみたい。
②大学進学率を上げるには、学力が高くて進学意欲のある生徒を積極的に声掛けをして引っ張っていくのも１つの手段である。
③経済的に余裕があれば、安易に専門学校へ行くのではなく、大学進学を勧めたい。
④入学者選抜の学検と調査書の比率について、中学では真面目にコツコツする生徒が行く学校だと考えているので有難い。４観点をしっかりと見てやっており、当日のペーパーテストだけではなく、学習シートを見ながらやっているので有難い比率である。正直者が報われる学校であってほしい。比率を変えるのではなく、別な方法で地元中学と連携しながら進学率をあげてほしい。
⑤中学も高校も３年間の調査書の在り方は大切である。調査書は信用できる。成蹊大学では、面接でどうその生徒を見るかが大切であると考えており、相対で判断する必要がある。また、コミュ

ニケーションが取りながらの授業があれば生徒は変わる。会話できる脳力、３年間の集大成が大事である。

⑥地元に愛される学校になれば学校は変わる。

３）

①ICT の活用とスマホの活用の整合性を考えなければならない。個別に情報が勝手に入ってくるので学校では教育内容に偏りがないように行っていく必要がある。

②守口市では、２０２１年度から小５、中１で一人一台のタブレットが配置される予定である。

③情報技術の発達に合わせた ICT の教育の必要性を強く訴えたい。そういう時代である。

④誰もがスマホを持っている時代であるが、守口東高校の生徒のようにきちんとしているのならば、アンケートを見れば心配しなくても大丈夫である。教師はどうしても一番悪いケースを想定してしまいがちである。

⑤便利な反面、危険なことはある。保護者も一緒になって考えてもらい、保護者の使い方と整合性をあわせた方が良い。

４）

第３回については、皆さんお忙しい立場ですので、日をこの場で決めたいと思います。２月 28 日（金）卒業式の午後にお願いします。教頭から案内を送付させていただきます。どうぞよろしくお願いします。